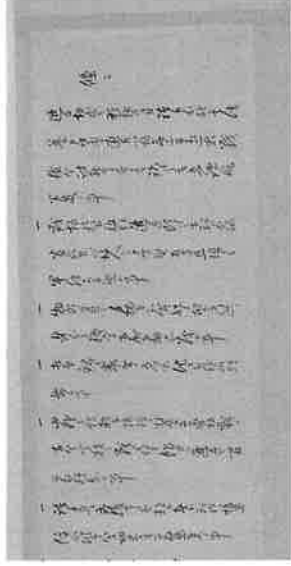


第68号  
2018年  
(平成30年)  
9月22日  
土曜

# 吉川史料館たより

## 展示品紹介

このたびは、吉川経幹の軍令状を紹介  
します。



### (積分)

條々

追日切迫之形勢ニ付諸口分配其他  
兼而申付置候通相心得無ニ可遂忠戦候  
縦令討死せしめ候共跡々之者有疎略間  
敷候事

一 戰場におゐて駈引進退頭々之下知ハ

勿論番頭其外役人之申聞堅相守且組々  
之軍律不可乱事

一 物頭は自己之手柄を不貪 能々配下  
を引廻し身分之職掌相励可抽忠戦事

一 合印銘々嚴重相心得他ニ不紛様肝要  
候事

一 山野之地敵を險隘ニ引受可遂防戦候  
方今火技之戦ニ候得は飽迄も進退之心  
得可為肝要候事

一 諸手互ニ心援せしめ都而無下知内々  
抜懸停止縦令功名せしめ候共可為曲事  
候事

一 手負之者江心を添候ハ不珍事ニ候共  
夫ニ託し其場を退候ハ後日ニ可有其沙  
汰事

一 敵方夜討有之時際と駈廻り敵を打候  
手立無用人數不散様ニ心得敵を仕拂候  
儀可為肝要事

一 敵と言葉闘い無用書もの類差越候時  
ハ其備之役武者江速ニ可差出候事

一 鉄砲は味方内ニ而取廻し筒先江念入  
可申平日持方ニ氣を付物前ニおゐて不  
覚有之候ハ、可為曲事候事

一 弾薬狼ニ費へからず下知を受人処を  
テ敵間を不量際と打捨間敷事

一 口論酔狂惣而屯集之内非礼非義之振  
舞又猥りニ脇固屋俗家江往来致間敷候  
事

右之條々堅可相守者也

発行所 吉川史料館

山口県岩国市横山二丁目七十一三

郵便番号 七四二-1008

電話番号 (0827) 141-1010

### (現代語訳)

日を追うことに形勢は切迫し、防衛拠  
点に配属を仕分けておいた通りに配置  
につき、ただ忠戦と心得えなさい。た  
とえ、討ち死しても後々の者は粗略に  
してはならない。

一、戰場において、駈け引きや進退決  
定の命令は勿論のこと番頭や役人の申  
すことを厳守し、かつ、組織の軍律を  
乱してはならない。

一、物頭(鉄砲隊の隊長)は、自分の手  
柄に貪らず、配下を指揮し、身分の職  
掌に勤めて戦うこと。

一、合印は銘々嚴重に心得え、紛れぬ  
ことが肝要である。

一、山野の地は敵を狭く険しい場所へ  
引き受け防戦をし、方今、銃撃戦とな  
れば、あくまでも進退の見極めが肝要  
である。

一、お互いに協力し、命令なく内々で  
抜け駆けすることはあつてはならない。  
たとえ手柄をたてても抜け駆けはして  
はならない。

一、負傷した者を心配し、それを理由  
にその場を退くものは後に沙汰をする。

一、敵が夜襲をしかけた場合、静かに  
馳せ廻り敵を打ち、散ることなく数人  
で敵を払うことが肝要である。

一、敵との言葉での闘いは無用である。

書類を送られた場合は、その備え役の  
部署へ速やかに差出す事。

一、鉄砲は味方うちで取り廻し筒先を  
念入りにすることは申すまでもなく、  
平日持ち方に氣をつけ、物の前に置いて  
何か失敗が起きてはいけない。

一、弾薬の無駄使いがあつてはならな  
い。必ず下知を受けて打ち、敵との間  
をはからず勝手に撃つてはならない。

一、口論や酔狂すべて屯集内において  
非礼非義の振る舞い、又はみだりに脇  
固屋や民家へ往来してはならない。

慶応二年一月二十二日、長州処分

(領地十萬石分の削減、毛利敬親の蟄  
居隠居、元徳の永隠居、家督は然るべ  
き者に相続)が勅許された。長州藩は  
この処分に対して請書を提出しなかつ  
たそこで、征長軍に進撃の命令がくだ  
り、六月七日に大島口をはじめ開戦と  
なった。この軍令状は戦闘直前の緊迫  
したなかで発令されたものである。

(原田)

### 参考史料

『幕長戦争』三宅紹宣著

平成二十八年十月一日発行

発行所 一般社団法人萩ものがたり



第二次長州征討の開戦時

第二次長州征討において、長州藩は大島口、芸州口、石州口、小倉口の四か所に軍備を配備した。

芸州口では広島と岩国の境である小瀬川を挟んだ対岸に兵を配した。

瀬戸内側を追手として、北側の山代口から廿日市に向けて搦め手とし、征長軍の横をつくように考えられた。

征長軍は最新の軍艦を配備しており、兵の数も二万と多く、激戦が予想された。

これに対して芸州口に配置された長州軍は、諸隊と岩国兵の連合隊で二千人の兵が配置された。(表1)

芸州口の戦いの開戦の様子は吉川経幹周旋記(第20)には記されている。それによると

六月十四日晴天、多田村に宿陣していた遊撃隊が小瀬川を渡り、兵を三手に分け、一手は九之坂に進み嶺上に於いて幕府軍(征長軍)と開戦となった。不意に攻撃したので幕府は狼狽し小瀧攻波へ敗走した。

長州軍は大船螺の山径より油見、立戸へ向い攻撃した。一軍は大竹村(広島県大竹市)に押し向かおうとした。

幕府軍の井伊(彦根藩)と榊原(高田藩)の隊が十三日の夜、和木(山口県和木町)に砲撃を開始した。こちらは、山中や河堤に潜伏して、敢えて応じなかった。

十四日の明け方、人の顔が分かりかけた頃、敵兵に向って川を越えようとした。敗翼団の団長・長谷川藤次郎、品川清兵衛らの号令により一斉に百挺の銃を連発し彦根兵数人を倒し、川中に跳んで一人の首級を獲る。(彦根使番竹原七郎平)この時、瀬田山より作事奉行の熊谷小伝右衛門がその隊士に命令して大砲を敵の後軍に連放した。

今田鉄左衛門の兵士・足助権之允狙撃隊も進んで追撃をした。

大砲フランス製ポルトカノン等、中には井伊家の紋付砲もあり、小銃陣幕甲冑諸陣具器械など分捕り夥しいものであった。

(後、竹原七郎平は和木町の安禪寺に埋葬された。)

芸州口の開戦から一週間後、総指揮は吉川経幹から遊撃隊総督の毛利幾之進に交替した。これは戦地が岩国領から離れることによるものである。

さて、芸州口の戦いで、長州軍側は征長軍との苦戦が続いていたが、八月七日には、宮内村に布陣していた征長軍に攻撃を開始し勝利した。八月九日、大野村にいた征長軍は陣営を焼き払い撤退したので長州軍も撤退した。

その後、休戦交渉の為に勝海舟が広島へ赴き、宮島の大願寺にて長州藩士広沢真臣と話し合いをすることになった。

九月二日には交渉は成立し、休戦となった。

この成立後、勝海舟は、厳島神社に刀を奉納した。

これで事実上、第二次長州征討は長州軍の勝利といえる。これ以後、討幕へ向けて時代が加速したといえる。

参考史料

『幕長戦争』三宅紹宣著

平成二十八年十月一日発行

発行所 一般社団法人萩ものがたり

隊名	人数	性格	奥根
1 遊撃隊	330	土庄混交の有志精隊 8小隊	精強編製
2 柱新団	170	原毛忠徳旅別部隊 4小隊	練功真義流法
3 衝撃隊	150	平塚隊の分隊 4小隊	精強編製
4 第一大隊	170	足軽で編制 2中隊参戦	もりのしげり 諸隊関係編年史料
5 第二大隊	85	足軽で編制 1中隊参戦	もりのしげり 諸隊関係編年史料
6 第三大隊	170	足軽で編制 2中隊	もりのしげり 諸隊関係編年史料
7 第四大隊	107	岩国藩士卒編成 2小隊参戦	吉川経幹周旋記
8 戦闘団	100	岩国藩士	四境戦争一軍
9 岩国兵	60	士以下の場合 2小隊参戦	諸隊編製
10 断忍隊	272	土庄混交の有志精隊 6小隊	諸隊編製
11 御旗隊	36	三田尻幸利旅別部隊	諸隊編製
12 一新組	234	吉原毛利士隊で編制 半大隊	諸隊編製
13 兼善隊	120	小瀬川遊撃隊	諸隊編製
14 兼善隊	45	兵戸備後助兵半忍隊 1小隊	諸隊編製
15 三丘兵(南第一大隊)	15	練徒佐野足利の遊法	諸隊編製
16 到入隊	175	土庄混交の有志精隊	諸隊編製
1 廣忍隊	200	土庄混交の有志精隊	諸隊編製
2 八幡隊	60	無松藩士で編成 1中隊参戦	諸隊関係編年史料
3 秀秀隊	90	3小隊参戦	諸隊編製
4 益田栞雄一手	120	栞主選相太尉士で編制 半大隊	諸隊編製
5 北条五大隊	170	土庄混交の有志精隊	諸隊編製
7 浦城隊	240	運原家臣で編制 半大隊	諸隊編製
7 宇部兵(南第十大隊)	34	山代参判御殿で編成	諸隊編製
8 旗団	25	山代参判御殿で編成	諸隊編製
9 神樂隊	44	山代参判旅別部隊	諸隊編製
10 山代参判茶苑中	275	岩国藩家臣で編成	もりのしげり
11 北門団	計3667		もりのしげり
小瀬川口	2234人		
山代口	1433人	旅別部隊の組織	250人

表1 岩国市史 通史編より引用

歴史エッセイ

毛利幾之進について

原田史子

慶応二年(一八六六)第二次長州征討(四境の役)では、芸州口(広島との境)の総督が最初は吉川経幹でしたが、途中で毛利幾之進親直に交替しました。

これまでは気にもならなかったのですが、毛利幾之進という人物について少しばかり調べてみました。

幾之進は、嘉永五年(一八五二)、毛利一門の毛利広梯の四男として誕生し、文久三年(一八六三)、同じく一門の毛利元深(もときよ)の養嗣子となりました。

慶応元年(一八六五)八月、幾之進は長州軍の諸隊のひとつ遊撃隊の総督となり高森に出陣しました。高森は萩本藩領であり、屯所は通化寺となりました。

第二次長州征討の折、遊撃隊は芸州口に配置され、小瀬川を越え大野広島県へ進軍し活躍しました。慶応二年九月には休戦となり、その後、幾之進は「土肥又一」と名を変えて兵学の勉強をするために長崎へ赴きました。

慶応三年(一八六七)、鈴尾五郎、河瀬安四郎らと共に藩命にてイギリスに留学しました。

さて、鈴尾五郎とは、福原芳山のことで、萩本藩寄組粟屋家の次男として誕生し、駒之進と称し、元治元年(一八六四)に長州藩家老の福原元備(越後)の養嗣子となり、慶応二年には干城隊の総督となりました。この干城隊の一部は衝撃隊と称し、第二次長州征討の折、芸州口の戦いに参戦しています。

そして河瀬安四郎とは、萩藩士・石川伝左衛門の三男として吉敷佐山(現在の山口市)にて誕生しました。幼名小五郎、明倫館で学びました。元治元年(一八六四)に河瀬安四郎と改称します。

慶応元年(一八六五)、広島において永井尚志と折衝にあたり、遊撃隊の副総督として芸州口の戦いに参戦しています。その後、河瀬真考と改名し、留学後は新政府に仕え、イタリアの特命全権大使をはじめ元老院議員・司法大輔、枢密院顧問を歴任しました。

さて、幾之進は明治四年(一八七二)に家督を相続しています。イギリスから帰国後、病気になる家督を養父に譲り、自身は上野五郎と改名します。その後、一平民として生きています。

明治十年(一八七七)、西南戦争の際、幕僚参謀として熊本へ出陣し、五月十八日に棒山の戦いで亡くなります。

享年二十六才。

長州藩は伊藤博文ら若い藩士をイギリスへ留学させ、彼らは明治維新後政治家や官僚となり名を残しています。ただ、幾之進に関しては、多くは語られておりません。これから調べていき

たいと思います。

※毛利一門とは、長州藩主毛利氏の一門(末戸氏および毛利姓)の五家をさす。藩士の最上階層で家老職につく。

(参考史料)

『防長歴史用語辞典』石川卓美著  
昭和六十一年七月一日発行  
発行所 マツノ書店

『増補 近世防長人名事典』  
吉田祥朔著  
昭和五十一年六月一日発行  
発行所 マツノ書店

『角川日本姓氏歴史人物大辞典 35 山口県』  
平成三年十二月二十日発行  
発行所 株式会社角川書店

★『山口市 暮末維新新史跡 ガイドブック』  
平成二十七年三月三十一日発行  
編集 山口市  
総合政策部文化政策課

★『そりせい公ぶらり見て歩き (毛利敬親)』  
石川和朋著  
平成二十五年十月十四日発行

お知らせ

当財団の前理事長吉川梅子は、かねてより病氣療養中のところ、八月一日に逝去いたしました。

ここに生前のご厚誼を深く感謝するとともに、謹んでお知らせいたします。

編集後記

今年の夏は山口県立美術館に於いて『毛利敬親展』が開催されました。

当館より史料を貸し出していることもあり、展覧会に行ってきました。このような大規模展はそうあるものでもなく、行ってよかったです。毛利敬親は「そりせい公」であるという揶揄を払しょくされたと思いました。

しかしながら、今年の猛暑続きには気分がまいりました。(原)

吉川史料館

〒七四一-〇〇八一

山口県岩国市横山二丁目七-三

TEL 〇八二七-四一-一〇一〇  
FAX 〇八二七-四一-三二〇〇

明治維新150年記念 吉川経幹展 後期			
展示期間一平成30年9月22日(土)~12月24日(月)		吉川史料館	
番号	史料名	時代	員数
◎1	太刀(狐ヶ崎)付属 草巻太刀拵	鎌倉時代初期	1口
展示期間 平成30年10月1日~11月30日			
2	太刀	南北朝時代	1口
展示期間 平成30年9月22日~9月30日 12月1日~12月24日			
3	毛利敬親届書	慶応元年正月9日	1通
4	吉川家譜(第23)		1冊
5	吉川経幹周旋記(第15)		1冊
6	大久保一蔵(利通)書状写	慶応元年	1通
7	桂小五郎談話覚書	慶応2年2月	1通
8	吉川経幹周旋記(第18)		1冊
9	芸州通知書	慶応2年	1通
10	幕府達書	慶応2年5月	1通
11	軍令状	慶応2年5月	1通
12	芸州口大手堀め手図	慶応2年	1通
13	吉川経幹周旋記(第20)		1冊
14	上関ならびに大島郡近況報知書	慶応2年6月	1通
15	友田出張所報知書	慶応2年7月晦日	1通
16	吉川経幹周旋記(第21)		1冊
17	勝海舟書状	慶応2年8月27日	1通
18	吉川家譜(第24)		1冊
19	岩国藩 軍制改革	慶応2年11月	1冊
20	吉川家譜(第29)		1冊
21	城主格達書	明治元年6月	1通
22	吉川経幹周旋記(第1)		1冊
23	吉川経幹卿略伝	明治24年	1冊
24	吉川経幹嘆願(隠居)届	明治元年	1通
25	岩国藩知事任命書	明治2年	1通
26	褒状	明治時代	1折
27	五言絶句	江戸時代末期	1幅
28	七言絶句	文久3年	2幅
29	七言律詩	江戸時代末期	1幅
30	一行書	江戸時代末期	1幅
31	一行書	明治時代	2幅
32	四大字	明治時代	1幅
33	英字額	明治10年	1額
34	吉川経幹画像	明治10年	1額
35	吉川経健写真(パネル)		1面
36	吉川重吉写真	明治時代	1面
37	写真(吉川経健 重吉)	明治時代	12枚
38	筋兜	江戸時代	1鉢
39	小桜威具足	江戸時代	1領
40	七大字	明治13年	1面
41	四大字	明治11年	1面
42	寄書	明治時代	1幅
43	山水図	明治時代	1幅
44	七言詩	明治元年	1幅
45	語句	明治時代	1幅